児島会頭インタビュー掲載記事

資匯 THE BUSY WEEKLY（2020 年 5 月 16 日発行）

「マレーシアはアセアンやイスラム諸国への窓口として最も適した国の一つ」

5 月 16 日発行の資匯 THE BUSY WEEKLY に、当所児島会頭のインタビュー記事が掲載されましたのでお知らせします。

≪児島会頭インタビュー内容≫

Q1.日本はマレーシアへの外資受け入れの主要な貢献国の 1 つですが、Covid-19 後のマレーシアへの日本の投資動向をどのように見ますか？

A1.新規投資にとっては良い状況ではありませんが、この状況は世界的にも同様だと思います。日本企業の多くは、1～3 四半期などの一定期間、大幅な減収減益に直面しているため、計画投資も延期される可能性があります。タイミングと投資額を慎重に判断する必要があります。大手製造会社の大多数はすでに 20～40 年以上前からマレーシアに投資しています。最近の投資は、サービス部門、ヘルスケア部門への投資です。

Q2.マレーシアへの投資を決定する上での日本企業の主な懸念は何ですか？

A2.新規投資または追加投資の円滑な承認プロセスが本当に必要です。MIDA 承認を取得した後でも、多くの異なる政府機関から多くの個別の承認を取得する必要があり、6 か月、1 年など、かなり長い時間がかかる場合もあります。マレーシアには、新しい投資に対する優れた競争力のあるインセンティブプランがありますが、そのいくつかは定義が明確でなく交渉が必要などの課題もあるほか、完全な承認を得るまでに時間がかかります。政府の問題を理解していますが、税制が妥当でない場合があります。簡単な問題ではないことも理解していますが、マレーシアの法人税率は他のすべての ASEAN 諸国よりも少し高くなっています。マレーシアには日系企業が 1400 社あり、約 600 社が JACTIM のメンバーです。日本企業によるマレーシアへの投資額を増やすには、マレーシアが既存の企業のより多くの輸出に対する競争力をサポートすることがより効果的であると考えています。したがって、新技術や新商品の開発を奨励するために、長期の既存企業の「再投資手当」を検討することをリクエストしたいと思います。特に Post-Covid においては大変重要です。

Q3.マレーシアは日本企業にとって ASEAN への投資に最も適した国だと思われますか？

A3.日本は、FDI としてシンガポールに次ぎ 2 番目に大きい状況であり、また、シンガポールからマレーシアへの投資額は、シンガポールの日系企業がかなりの額を投資していますが、最近では、それほど大きな投資は行われていません。マレーシアは、さまざまな製造業に投資してすべてのアジア諸国およびイスラム（ハラル）諸国に輸出するのに非常に良い国の 1 つだと思います。

Q4.日本企業が主にマレーシアに投資しているセクターは何ですか？

A4.歴史的には、E&E とその関連産業が最大のセクターであり、E&E の他に化学薬品も大きく、食品、IT、医療機器、ヘルスケアセクターが成長しています。理由は先程申し上げたとおりすべてのアジア諸国およびイスラム（ハラール）諸国に輸出するため、さまざまな製造業の投資において非常に優れた国の 1 つです。ただし他の ASEAN 諸国と比較して、国内需要は必ずしも十分ではありません。したがって、適切で事業領域を選択する必要があります。E&E と自動車産業については、マレーシアもアジア諸国のサプライチェーンの重要な一部です。